

●ものすごく気になることがあります！買い物に行き帰り、ゴミの山を目にします。国道354号の地区、何年も前からです。記念碑の見えないほどのゴミ、ゴミ。地球上で今、エコ、エコとの話題の時期に、近くのゴミを片付けられないことはいかがでしょうか。大型店舗ができ、市外区からのお客様にも良い感じは受けません。早急の解決をお願いします。

(60代 女性)

●霞ヶ浦での観光帆引き船、麻生・玉造で行われておりますが、行方市には北浦もございませぬ。以前、北浦にも帆引き船はございませぬ。夕日に映える帆引き船ならば朝日に映える帆引き船。朝日は北浦で、夕日は霞ヶ浦、お客様に二度楽しんでいただいてはいかがか。

(60代 男性)

●行方市民文化会館は、客数550名収容できるホールを備えたすばらしい施設です。しかし、残念なことあまり活用されていないのが現状です。東京に行かなくても、良い音楽にふれることができたら嬉しいですね。子育て真っ最中のお母さんたちも気兼ねなく子供と一緒に音楽を聴く機会が増えたらどんなに良いことでしょうか。幸い、行方市にはすばらしい演奏家が在住しています。ぜひ気軽に聴きに行ける市民コンサートを企画してほしいと思います。

(50代 女性)

●私たちの地域の道路は、狭く緊急車の入れない道路が多くあります。また、生活道路としても運転に気を遣います。軽車両でなければ走れない所もあります。火災など災害が起きた時は不安です。旧麻生町時から広げてもらいうよう要望がされていますが、まだ広がっていません。早急に道路拡張を行方市にお願いします。

(50代 男性)

ちょっとひと言!!

市民の声

広報委員が市民の皆さんに、行方市に寄せる思いをひと言インタビューしました。



●季節の寒さと重なるように、社会の不景気は私たちの心まで寒くさせてしまいます。私は、今自分のできることは何かと考えます。行方市もたくさんさんのボランティアが活躍しておりますが、市民の協力をもっと呼びかけ、それはよりよい行方市づくりのためにです。

市はめりはりある行政舵取り、創意工夫で市民一体の強い行方市づくりを目指してもらいたいと思っています。

(50代 女性)

●「議会だより」は、私にとって、今、市で何が問題になっているかを知ることができる唯一と言ってもいい広報媒体です。市の色々な取り組みがわかります。ただ、税金がこんなところに使われているのかと思うこともありました。議員さんの追及が不十分だと感じました。身近な人からだけではなく、より多くの、例えば、市に居住する専門家などの意見を聞いて、議会に反映させてほしいと思います。たとえ何を言わなくても、多くの市民は、議員の皆さんの活動を見守っています。

(60代 男性)

●私がこの頃寂しく感じることは、地元で育った子供たちの大人になった姿が見られないことです。我が子と同世代の人たちも高校を卒業すると、ふるさとを離れてしまいます。戻ってくるのは、ほんの一握りの人たちです。

日本中で少子高齢化が叫ばれています。自分自身を見てもすごい勢いで進んでいます。行方市で育った子どもたちが、喜んで行方市に戻って来るようなところにあることが、重要な今の行方市の課題だと思っています。まずは働く場所の確保だと思っております。市全体で取り組んでほしいと思います。

(50代 女性)

みんなで傍聴しましょう!!

定例会は、原則として3・6・9・12月の年4回開催されます。

編集後記

多くの市民の厳粛な付託を受け、伊藤市長の誕生をみた今回の行方市長選。結果として、一票の重みを感じさせる選挙でもあった。



早速、始動した伊藤市政においては、市民の目線に立った、市民の声が反映される、市民が主役の行政運営に専念していかねばならないと思う。

そのためにも、私たち24名の議会人はさらに、市民の皆様への御用聞きに徹し、その声を行政につなげていかねばならない使命と責任がある。また、職員には市民に対するサービスを公務と心掛け、最高のサービスを市民に送り届けてほしいと願わずにはいられない。

この調和なくして市民が主役の行方市の前進はあり得ないし、明日の行方市の輝きは見えてこない。本市の新しい出発にあたり、行政サービスの原点に立ち返り、「行政改革とは」、そして「福祉の充実とは」との視点を踏み外してはならないし、また、その努力を怠ってはならないと思う。今を必死に生きる、全市民のためにも!

(高橋正信)

広報委員会

- 委員長 宮内 正
- 副委員長 高橋正信
- 委員 松兼幸蔵 鈴木義浩
- 委員 関野謙一 横田太一